

「自立と体験1」2021年度以降の取り組みと「学びとキャリア」への展開

高橋 南海子

1. はじめに

2011年度に開講した全学共通初年次科目「自立と体験1」は、「アクティブ・ラーニング型」「多様性からの学び」「体験による学び」を特徴として、学部学科横断クラスで実践されてきた。鈴木(2021)は、明星教育センター開設10周年記念特別編において、「自立と体験1」の10年間の教育実践の取り組みを振り返り、その成果と今後の展望について考察している。また、2020年度は新型コロナウイルス感染防止のために急遽非対面での授業実施となった年でもあり、その経緯についても報告された。

2021年度以降も非対面での授業実施は継続され、アクティブ・ラーニング実践のための様々な工夫を続けながら展開してきた。さらに、2023年度のカリキュラム改訂を機に、「自立と体験1」は科目名を改め、後継科目「学びとキャリア」として新たなスタートを切ることとなった。

本稿では、これらの2021年度以降の非対面授業における取り組みと成果、および「自立と体験1」から「学びとキャリア」への展開の経緯について報告する。

2. 2021年度の実施状況

2-1. 授業実施に関する変更点

(1) ZoomとLMSを併用した授業形態の検討

2020年度の非対面授業は、LMSによる学習を基本とした。授業期間の後半にZoomを取り入れた授業案を準備したが、導入は担当者の任意であった。2021年度は15回の授業全てにZoom授業を導入し、授業の基本構成を「事前学習(LMS課題)」、「Zoom授業」、「事後学習(LMS課題)」とした。各回の授業内容と展開は、ZoomとLMSを併用した仕様に大幅に変更した。

(2) 学生同士の交流の促進や大学生活や将来に意識を向けるための働きかけ

学生同士が交流を深めることを目的とした授業を導入した。(第4回「仲間をつくる」・第14回「交流を深める」)。当該授業回では、特にブレイクアウトルームを多用して対話の機会を確保した。関係づくりに加え、大学生活での困りごとの共有、解決方法やサポート資源に関する情報交換の場とした。

大学生活を活性化させたり、将来に意識を向けるために、明星大学に関わる多様な人々、インターンシップ、自己理解に関するコラムを追加した。大学の部署紹介の一環として、キャリアセンターに紹介の動画の作成を依頼し導入した。

(3) 教材の提供方法、運用方法の検討

ポートフォリオの印刷冊子の配付を停止し、全てPDFデータで提供した。従来のポートフォリオは、授業回分毎に分割し、「事前課題ワークシート」と「授業用ワークシート」の2種類を準備した。これらの資料は学生が印刷して、授業中に記入して使用することを想定し、LMSでの課題と併せて活用した。

(4) SA・TAの導入

SA(スチューデントアシスタント)を各クラスに配置し、受講生のサポートを任せた。SAの業務内容を、Zoom授業時に合わせたものになるように検討し、研修を行った。

(5) 担当教員へのサポート

Zoom授業、LMS教材の提供等、授業運営のサポートを行った。事前研修では、Zoom授業でのファシリテーションの工夫やオンラインツールの活用について情報提供をした。従来より活用している教員サポート体制(MEC教員が「グループリーダー」として複数の担当教員をサポート)は継続した。担当教員からの問い合わせに対しては、LMSの掲示板を活用した。

2-2. 2021年度の成果と課題

(1) 成果

全ての授業回にZoom授業を導入したこと、第4回、14回に学生同士が交流する回を設定したことにより、学生が能動的に活動する機会が確保された。その結果、2020年度と比較すると学習活動における学生の自己評価が高まっており、学習目標の達成への効果は高かったと考えられる。

オンラインツールの特性を生かした授業を展開することができた。チャットの活用により、個々の学生の意見を引き出し、取り入れて授業を展開することが可能となった。チャットによるコミュニケーションが効果を発揮し、授業内で意見を発信、共有のレベルが上がった。

キャリアに関するコラムが入ったことで、学生に大学生活や将来について意識を喚起することができて効果的であった。

(2) 課題

①学生の授業への参加態度には個人差がみられた。授業効果を高めるためには、基本的な協同学習のマインドやカメラオンで参加する等の意識の醸成が必要であり、そのための仕組みを検討する必要がある。また、教材を印刷し手元に置いて、書き込みながら授業を受けるという態度は徹底されなかった。状況に応じた教材の活用方法の検討が求められる。

②対面実施時の授業内容をZoom授業仕様に変更したため、オンラインでの実施には内容や配当時間が適切ではない課題も含まれていた。内容の重複も見られ、精査する必要がある。特に、全体的に「人と関わる」ことに重きを置いたコミュニケーション課題が多い点、「大学生活でやりたいこと」を繰り返し個人に考えさせている点は整理が必要である。

3. 2022年度の実施状況

3-1. 授業実施に関する変更点

(1) 学生の主体的な参加を促す仕組みづくりと働きかけ

大学のアカウントでZoomにログインすること、グループワークや発表の際は、カメラオンするなど、授業参加の姿勢について、具体的な方針を示し、教材、運営、教員研修等で周知した。授業内でも継続的に働きかけた。

(2) 教材の再編

配付資料、LMSレポート等の教材は、活用しやすさを考慮した形に改編した。「事前課題」「授業用」に分け、授業ごとに個別に配布していた配付資料は、「ワークシート」として一本化し、利用順となるようにページを編集した。教材の印刷は求めず、授業内にLMSを参照、入力が効率よく行われるようにレイアウトを検討した。

(3) オンライン授業に適した内容や演習等の配当時間の検討

コミュニケーションの課題に偏らないように構成を見直した。「大学生活でやりたいこと」を繰り返し記入するのではなく、大学生活について多角的に考え、経験の幅を広げられるアプローチを検討した。

(4) 学びとキャリアへの接続を意図した新プログラムの導入

「学びとキャリア」での実施を想定して「大学生とキャリア」を取り上げた新規の授業を2つ作成した。2022年度の授業内容は、表1のとおりである。自らの強みや特性を考えることに焦点を当てた「社会人基礎力を考える(第3回)」とキャリアデザインの考え方や大学生にとってキャリアを考えることの意味、社会的背景等について理解を促す

「キャリアデザインについて考える(第11回)」が新規に導入された授業テーマである。これによりプログラム全体におけるキャリア教育の比重が高まった。

表1 2022年度「自立と体験1」授業内容一覧

回	授業名	回	授業名
1	オリエンテーション	9	明星大学を知る
2	新しい環境で他者と出会う	10	多様なメンバーで作る明星大学
3	社会人基礎力を考える	11	キャリアデザインについて考える
4	大学での学びを考える	12	卒業生から学ぶ
5	聴いて相手を理解する	13	自分の特徴を知る
6	交流を深めて仲間を作る	14	これからの大学生活を描く
7	ルールとマナーを考える	15	私の大学生活宣言
8	自分や相手の大切さを知る		

(5) 学生の制作協力による部署紹介動画の作成

学生サポートセンター、キャリアセンターの利用イメージを高めるために、部署紹介動画を作成した。その際、「学生の目線」で必要な情報を提供し、疑問点に答えるために、勤労奨学生による大学スタッフへのインタビューという形式をとった。制作においては、各部署にご協力を頂き、メッセージを発信して頂いた。

(6) ウェビナー開催による合同授業の実施

第9回「明星大学を知る」における「学長講話」をウェビナー形式で実施し、3年ぶりの合同授業が実現した(2020年度と2021年度は動画配信)。時間割に応じて5回のウェビナーが開催された。チャットによるリアルタイムの質疑応答や意見交換が大変活発になされた。学長の講話に対しては、5回の授業の合計で、約1440通の感想、約170件の質問が寄せられた。これらの質問に対しては、後日「学長25の質問に答える」という形で学長より回答が提供され、学生と共有することができた。

3-2. 2022年度の成果

2020年度以降の非対面授業における実践を踏まえ、オンラインの特性を十分に活かした効果的なアクティブ・ラーニング型の授業を実施することができた。授業内容的にはオンラインでの実施に最適化したものとなり、運営面でも効率的に進めることができた。

多くの学生は比較的安定的な環境で授業に参加できていた。以前に比べ、Zoom授業への参加における混乱は少なかった。カメラオンで参加する状態が比較的徹底されたことも、学生の参加程度、主体的取り組みに寄与したと考えられる。

Zoom授業において「他者と関わる」活動は維持されつつも、コミュニケーションスキルのトレーニング課題に偏らないプログラムとなった。学生間のコミュニケーションでは、単純な交流ではなく、建設的な意見交換がみられる場面も増えていった。その背景として、LMSレポートの記述の繰り返しによる意見構築力の向上がみられ、ワークにおいても、問題意識をもって発信したり、根拠を持って意見を述べる姿勢が強化されたと考えられる。

また、チャットの活用により、対面授業時と比較すると相当積極的に自らの考えを発信するようになった。クラス内では多様な考えが共有され、相互に影響しあい、グループとしてのダイナミズムも感じられた。このような環境下での継続的な取り組みが、学生の能動的な姿勢につながったと考えられる。

第11回「キャリアデザインについて考える」への学生の反応は良かった。事前課題として提示した資料は、従来の「自立と体験1」の方針から考えると量が多かったが、意見を持って集まることで授業内での議論は深まった。多様な価値観を持つ者の中でキャリアについて語ることで気づきは大きい。「学びとキャリア」で導入すべきキャリアの扱い方の手がかりを得られた。

4.「学びとキャリア」への展開

4-1. 明星教育センターで展開するキャリア教育プログラムと「学びとキャリア」

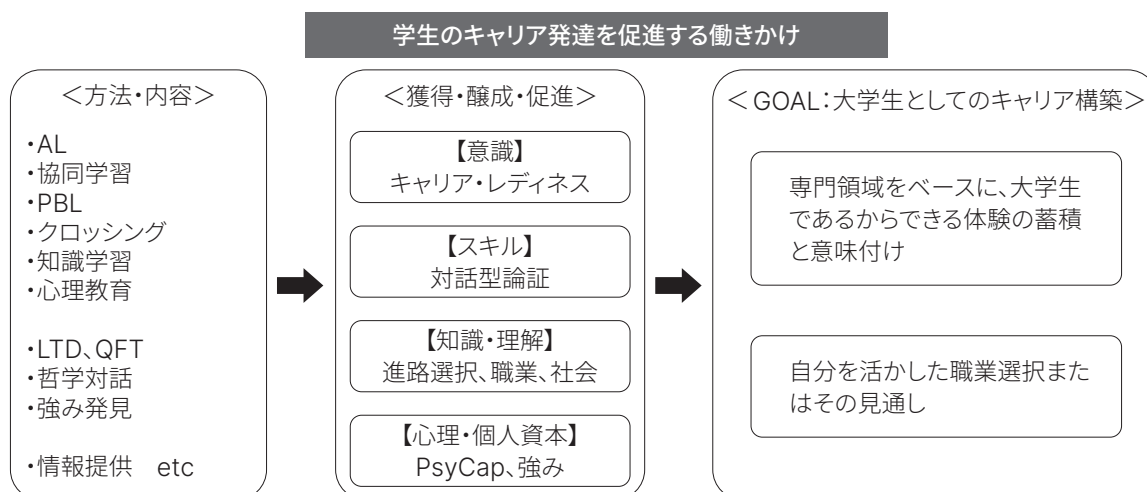
2023年度からのカリキュラム改訂に先立ち、明星教育センターで展開するキャリア教育の概念モデルを作成した(図1)。アクティブ・ラーニング、協同学習などの様々なアプローチにより、学生の意識、スキル、知識・理解、個人の資源の獲得、醸成、促進を図り、専門領域をベースに大学生であるからできる体験の蓄積と意味づけを促進し、長期的には自分を活かした職業選択、またはその見通しにつながるような土壌づくりを行うものである。

特に個人の資源としての強みの発見と強化をプログラムの中に組み込む点は重視している。学びとキャリアもこのモデルに則り、学生のキャリア発達を促進する働きかけを行っていく。

「学びとキャリア」は、「自己を探究しつつ、自分らしさを活かす方向へ行動を起こす人の育成」を教育目標に掲げ、プログラムを再編成した。

大学での学び方を身につける、明星大学を知る、生涯に渡ってキャリアデザインを考える必要性を理解する、自分の持ち味を知り、その活かし方を探索する姿勢を持つことを到達目標に、グループによるケーススタディ、情報収集・発表および、自校教育、キャリアデザインに関する講義等を行う。

図1 明星教育センターで展開するキャリア教育プログラムの概念モデル



- ・**キャリア・レディネス**: 人生、生き方、職業選択・就職などに関する成熟した考え(関心性、自律性、計画性より構成される)。進路探索行動を促進する。
- ・**対話型論証**: ある問題に対して他者と対話しながら根拠をもって主張を組み立て、結論を導く活動。コミュニケーション、論理的思考、批判的思考、などが含まれる。
- ・**PsyCap**: ホープ、自己効力感、レジリエンス、楽観性より構成される。キャリア発達、well-beingの5S(ポジティブ感情、エンゲージメント、人間関係、意味・意義、達成)を促進する。**強み**はその人の本来性を活かし、最大限機能化させる個人資源となる。

4-2. 「自立と体験1」から「学びとキャリア」へ

最後に、「学びとキャリア」への移行にあたり、「自立と体験1」における実践のどの点を継続し、どの点を新規に取り入れていくのかについて述べる。

(1)「自立と体験1」から継続する点

①「体験による学び(学び方の学習)」

「自立と体験1」の根幹でもあった「体験から学ぶ学び方を学習し、体験(経験)学習プロセス」を身に付けるこ

と、それを学内外や将来にわたり活用することは、変わらず重要な取り組み姿勢である。授業内で様々な体験をし、その振り返りを丁寧に行う方針は維持していく。

②「多様性からの学び」

学部学科横断クラスによる多様なメンバーで構成される学習環境は維持される。他者との関わりを通しての自己理解は重要な学びの機会である。また、今後、ダイバーシティ・インクルージョンの重視される社会にあってはこのような環境で学ぶことの重要性は一層増すと考える。

③「主体的な学び（アクティブ・ラーニング、協同学習）」

アクティブ・ラーニング実践のための様々な工夫を続けながら、学生の主体的な学びを促進していく点も、維持、強化していく。

④授業時のLMSを活用しての演習の実施

教材のデジタル化、LMSを活用した授業スタイルは維持する。授業時に自由に教室内を移動して多様なメンバーと学習する機会を得るという進行を想定し、スマートフォンで受講できる環境を整えることを検討している。

(2)「学びとキャリア」に取り入れる新しい視点

①個人の資源を伸ばすという視点

個人の資源としての強みの発見と強化をプログラムの中に組み込む点は重視し、教育目標として、「自己を探究しつつ、自分らしさを活かす方向へ行動を起こす人の育成」を設定する。演習やアセスメントツールも活用して、個人の資源の発見と促進を促す。

②大学生としてのキャリアを積み重ねるという視点

「自立と体験1」では、大学生活の目標設定を重視し、「大学でやりたいこと」を考える機会を多く設けたが、その目標を宣言することに留まっていた。一方、「学びとキャリア」では、「大学生活の目標設定」はしない。「このように振り返りながら学ぶことが大切」ということを伝え、やりたいことを考えるだけでなく、経験を積み重ね、意味づけることの習慣をつける。目標設定はしないが、緩やかな方向性を見出す。

そのために、「キャリアデザインシート」を採用し、授業内で意図や扱い方を指導する。「キャリアデザインシート」は、学生が、自身のキャリアに関する方向性や自分軸を明確にするために、大学生活における具体的な体験を記述しつつ、その体験を振り返るためのツールである。具体的な体験を数多く記述するなかから、自身の「やりがい」や「得意なこと」、及び「社会に対する見方・考え方」を発見し、自身のキャリアに関する方向性や自分軸を明確にすることを目的とする。

③クラスサイズの変更と中規模クラスに対応する授業運営の検討

「自立と体験1」は、各学部学科の教員にも担当いただき、少人数クラスで展開していた。一方、「学びとキャリア」は、明星教育センターの教員と数名の非常勤講師のみで担当する。そのため一クラスのクラスサイズは、現在の30—35名から60名前後の中規模クラスに変更する。

今後は、大人数の学生に対しても少人数クラス実施時と同様の質の高い学びの環境が担保されるように授業内容、実践方法を検討する。

以上のとおり、2023年度からの新規科目「学びとキャリア」が、新1年生のキャリア発達を促進する科目として十分に機能し、発展するように様々な工夫や挑戦を続けていく。

引用文献

鈴木浩子(2021). 教育実践の取り組みと成果「初年次教育」—明星教育センター開設10周年記念特別編 明星大学明星教育センター研究紀要, 11, 130-138.